



吉野川には徳島の日常がある

四国大学 経営情報学部 あきやま さやか 秋山 紗花さん



私にとって「川」は、ただの自然ではありません。幼い頃、家族と訪れた穴吹川や三好市でのラフティング、カヌーツアー。その記憶は今も鮮やかに残っています。弟の野球を応援するために河川敷へ足を運んだことも、私の日常の一部でした。

川へ行くと、心がスッと解き放たれるような感覚になります。透明な水を眺めると「生きているなあ」と実感し、自然の力をすぐそばに感じます。河川敷では散歩する人やスポーツを楽しむ人がいて、堤防を通して学校へ通う私にとっては、「ここには徳島の日常がある」と強く感じる場所です。

大学では、吉野川がつくった中洲・善入寺島をテーマに、景観や暮らし、農業と観光の関わりなどを多面的に調べています。昔から川遊びで感じてきた“自然の中で遊ぶ楽しさ”が原点になっています。しかし、調べるうちに吉野川水系が洪水氾濫を繰り返し、その中で命を落とした人もいたことを知りました。一方で、川がなければ肥沃な土壌は生まれず、作物も育ちません。川は私たちの生活を支える欠かせない存在であり、すでに私の暮らしの一部になっているのだと改めて気づきました。だからこそ、天候や水位の変化を確認し、「慣れたつもり」にならず、慎重に自然と向き合う姿勢を大切にしたいと思います。

また、もっと多くの人が川に興味を持つためには、子どもたちが川に触れる機会を増やすことが重要だと思います。たとえば、年に一度だけでも地域の川で水泳をする機会を作るのはどうでしょうか。川に直接触れることで「本当の水の怖さ」や「自然との距離感」を身体で理解でき、忘れられない体験になるはずですよ。

私にとって川は、山のミネラルを海へ運ぶ「循環の要」であり、人が生きていくための根幹を支える存在。そして吉野川は、「THE 徳島」の風景とも言えるほど、地域の景観や文化の中心にあり続ける存在です。これからも自然との距離感を保ちながら、吉野川がある日常を大切に過ごしていきたいと思っています。



交流体験 in よしのがわ

吉野川の豊かな自然のなかで

学び、遊び、親子で夏休みの思い出を！

吉野川に親しみ、地元の人々との交流を通じて連携を深めてもらおうと、今年も上・中・下流の3か所で「交流体験 in よしのがわ」を開催。水難事故防止講習



も行い、川で遊ぶ時の注意、スローバックの使い方、ライフジャケットの正しい付け方などを実習しました。

上流編 池田ダム湖で水上スポーツを満喫!! R7.8/2

水上スポーツの拠点として人気上昇中の池田ダム湖で、今年も上流編を開催。三好ラフティングチームの指導で小中学生親子21名がラフティングやスタンド・アップ・パドルボード(SUP)を体験しました。SUPに座ってクルージングしたり、



ラフトボートをみんなで漕いだり、川に飛び込んで泳いだりと、思い思いにウォータースポーツを楽しみました。川風を感じながら、水辺の楽しさを満喫した一日でした。

中流編 吉野川でカヌーを楽しもう R7.7/23

例年人気の中流編。今年も四国三郎の郷付近でカヌー体験を開催しました。AMEMBOの指導で、パドルの持ち方、姿勢、カヌーの操作方法などを教えてもらい、小中学生親子33名が川へ。吉野川市から参加した仲良しの(写真右/左から)原田侑芽さん・小冬さん姉妹、中川柚希さん達は、「川の上は涼しくて気持ちよかった」「初めてだけど楽しかった」と、口々に笑顔で話してくれました。



下流編 おさかな博士の川魚かんさつ R7.8/4

下流編は、井藤大樹さん(県立博物館学芸員)を講師に鮎喰川・梁瀬橋付近で川魚観察会を開催。魚の捕まえ方のレクチャーの後、小中学生親子25名が網を手に川へ。この日が「川デビュー」という徳島市の坂口莉子さん(写真左)も、お母さんと協力して無事お魚をゲットしました。実習の後は、カワヨシノボリ、カワムツ、シマドジョウ、アマチチブなど、捕まえた魚について井藤先生から名前や生態を解説していただきました。

